

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

(158)

世界では、2050年までに人口の約70%が都市に集中すると言われている。都市環境の激変による、環境、交通、防災、エネルギーなどの社会問題が複雑化してきている。国

連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）でも、参加型で包摂的な方法による、安全、強靱かつ持続可能な都市づくりが求められおり、我が国でも、ICTを活用し、スマート社会を実現するSociety 5.0の取り組みが進められている。そこでは、膨大なセンシングデータから、実世界でのさまざまな出来事や事象の関係を人工知能（AI）などを用いて効果的に発見・予測し、意思決定や行動支援で利用できるようなイベント情報（大量データ）から、上空間のイベント情報（大量データ）から、相関を発見・予測するデータマイニングや機械学習の機能を実装した「Dataプラットフォーム」を、NICT総合テストベッドとで、異常気象による交通リスクや、大気環境による健康リスクなど、従来の複雑なシミュレーションを拡張性高く予測・分析を、AIを用いたデータ連携分析により実現している。

## 事象の関係性発見・予測

統合ビッグデータ研究センター！  
研究センター長 是津 耕司

2005年京都大学大学院卒。1992年日本IBM、03年通信総合研究所を経て、05年NICTに入所。18年より現職。データマイニング、情報検索、データベースの研究に従事。博士（情報学）。



### AIを用いたデータ連携分析



気象レーダーと交通障害データを組み合わせて、異常気象による交通リスクを予測し、リスクを避けた安全なルートを探索

また、地域住民や技術者・学生らが参加し、これらのリスク予測データを活用したスマートモビリティやスマートヘルスケアのサービスを提案・試作するハッカソンを実施したり、環境問題意識の高いASEAN地域（ベトナム、フィリピンなど）のスマートシティと連携し、情報ポータルに収集されたさまざまなデータを連携させ、現地の観光、交通、健康管理などスマートサービスで活用する実証実験を、地元大学や企業と共同で進めている。

（火曜日に掲載）

科学技術・大学